

# FS-G7P+

## User Manual

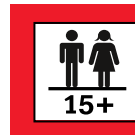
# FLYSKY

Automatic Frequency Hopping Digital System



Copyright ©2025 Flysky Technology Co., Ltd.

**METEOR**  
流星株式会社



**WARNING:**  
This product is only for 15 years  
old or above

# FLYSKY

## 取り扱いと注意事項

このたびは FS-G7P+ をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。この取り扱い説明書を注意深く読んで、個人の安全と機器の安全を確保してください。

使用中に問題が発生した場合は、まずこのマニュアルを参照してください。

製品についてのご不明点や問題がある場合、お買い上げの販売店様に直接お問い合わせいただくか、以下の Web サイトから弊社カスタマーサービススタッフにお問い合わせください。

<https://meteor1992.co.jp/>

- 2.4GHz 帯の電波はラジオコントロール専用の周波数ではありません。  
2.4GHz 周波数帯は ISM バンド ( 産業、科学、医療 ) と共用されているので電子レンジ、無線 LAN、デジタルコードレス電話、オーディオ機器、ゲーム機や携帯電話の Bluetooth、VICS などの近距離通信の影響を受ける可能性があります。  
またアマチュア無線、移動体識別用構内無線局にも使用されているため、これらの影響に十分注意して使用してください。  
なお、既存の無線局に有害な電波干渉を与えた場合は即座に電波を停止し干渉回避対策をおこなってください。
- RC サーキット等では 2.4GHz システムに影響を与える可能性のある機器の使用を最小限にし、必ず事前に施設管理者の指示に従い安全性の確認をおこなってください。
- 建物や鉄塔などの後ろを走行させた時、電波の到達方向を遮へいすると操縦レスポンスの低下または操縦不能になる可能性があります。  
常に目視で出来る範囲で操縦してください。
- 日本国内では技術適合証明試験を受け、認証番号を記載した技術適合証明ラベルが貼られている送信機やモジュールが使用できます。技術適合証明ラベルを剥がしたり汚したりしないでください。
- 技術基準適合証明を取得していないプロポやモジュールを日本国内で使用することはできません。  
電波法違反になる場合があります。
- ( 財 ) 日本ラジコン電波安全協会ではラジオコントロールに使用する電波を安全に使用していくための啓発をおこなっています。  
同協会の名称の入った技術適合証明ラベルが貼られている送信機やモジュールの使用を推奨します。
- 走行中は送信機のアンテナ内蔵部を握ったり覆ったりしないでください。  
電波出力が弱くなり走行できる範囲が狭くなる可能性があります。
- 送信機のアンテナ内蔵部には金属を取り付けしないでください。
- 受信機は精密機器です。強い衝撃や振動をあたえないように防振対策を行ってください。
- 受信機のアンテナ線は折り曲げたり、切断したりしないでください。
- 受信機のアンテナ線はモーターやバッテリーなどのノイズの多い場所に近づけないでください。
- バッテリーは絶対にショートさせないでください。発火：火災の恐れがあります。
- バッテリーの分解改造は行わないでください。
- 対応したバッテリー以外使用しないでください。機器の破損：発火の恐れがあります。

# 目次

1. 安全について .....	1
1.1 表示記号について.....	1
1.2 安全ガイド.....	1
2. 送信機の概要 .....	2
2.1 送信機の外観.....	2
2.2 受信機概要 (FS-G7P+) .....	4
2.2.1 ステータス LED .....	4
2.2.2 コネクタ .....	4
2.3 アンテナ .....	4
3. 使用方法.....	5
3.1 送信機への電源接続について .....	5
3.2 受信機とサーボの取り付け .....	5
4. 取扱説明.....	6
4.1 電源オン .....	6
4.2 バインディング (ペアリング).....	6
4.3 LED: サウンド設定 .....	6
4.4 キャリブレーション (校正).....	7
4.5 工場出荷時へのリセット .....	7
4.6 電源オフ .....	7
5. システムインターフェース .....	8
6. 機能設定.....	9
6.1 (Reverse) リバース.....	10
6.2 (EPA) エンドポイントアジャストメント .....	10
6.3 (Subtrim) サブトリム .....	11
6.4 (D/R setup) デュアルレート設定 .....	11
6.5 (Cruve) カーブ .....	12
6.6 (SVC) ジャイロ .....	12
6.7 ビギナーモード.....	13
6.8 (ABS) アンチ・ロック・ブレーキ .....	14
6.9 アイドルアップ (IDLE UP) エンジンカー用 .....	15
6.10 エンジンカット (ENG CUT) .....	15
6.11 チェンネルスピード (CH SPEED) .....	16
6.12 AUX.CH 補助チャンネル (CH3 ~ CH10) .....	16
6.13 ミキシング (Mixes) .....	17




# 目次

6.14 ステアリングミキシング (Steering Mixes) .....	17
6.15 プログラムミキシング (Programming Mixes) .....	17
6.16 タイマー設定 (Timer) .....	18
6.17 タイマー (Timer) .....	18
6.18 タイマー ラップリスト (Lap List) .....	18
6.19 スイッチ割り当て (Switch Assignment) .....	18
6.20 受信機設定 (Receiver Settings) .....	19
6.21 フェイルセーフ (Failsafe) .....	19
6.22 バインド (ペアリング) 設定 (Bind Settings) .....	20
6.23 電波信号低下警告 (LOW SIGNAL ALARM) .....	21
6.24 テレメトリー信号損失 (TELEMETRY LOSS) .....	21
6.25 電波到達距離テスト (Range Test) .....	22
6.26 センサー (Sensor) .....	22
6.27 ESC アンプ設定 (ESC Settings) .....	22
6.28 受信機設定 i-BUS 設定 (FS-CEV04) .....	23
6.29 モデル (MODEL) .....	24
6.30 システム (System) .....	25
6.31 システム設定 (System Settings) .....	25
6.32 スティックキャリブレーション .....	26
6.33 ファームウェアアップデート .....	26
6.34 工場出荷時へのリセット.....	27
6.35 ヘルプセンター .....	27
6.36 送信機について .....	27
7. 製品仕様.....	28
7.1 送信機仕様 FS-G7P+ .....	28
7.2 受信機仕様 FS-R4B .....	29
8. パッケージリスト .....	29
9. 各種証明.....	30
9.1 EU 適合宣言 .....	30
9.2 CE 警告 .....	30
9.3 FCC 声明.....	30
9.4 廃棄処理について .....	31

## 1. 安全について

### 1.1 表示記号について

以下の記号とその意味に細心の注意を払ってください。これらの警告に従わないと、損傷、負傷、または死亡する可能性があります

 危険	• これらの指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。
 警告	• これらの指示に従わないと重傷につながる可能性があります。
 注意	• これらの指示に従わないと、軽度ではあるが傷害を負う可能性があります。

### 1.2 安全ガイド



禁止事項を示します。



必ず実行する  
事項を示します。



- 夜間や雨や雷雨などの悪天候時には使用しないでください。この製品に影響を及ぼし、動作が不安定になったり、制御が失われたりする原因となります。
- 視界が制限されているときは、製品を使用しないでください。
- 雨や雪の日には使用しないでください。湿気(水や雪)にさらされると、動作が不安定になったり、制御が失われたりする可能性があります。
- 電波干渉により、制御が失われる可能性があります。あなたや他の人の安全を確保するために、次の場所で操作しないでください
  - 1. 他のラジコン製品が電波を発生する可能性のある場所の近く
  - 2. 電力線または通信放送アンテナの近く
  - 3. 人ごみの中や、車の行きかう道路の近くや、船が往来する水域など
- 疲労時、気分が優れないとき、またはアルコールや薬物の影響下にあるときは、この製品を使用しないでください。ご自身や他人に重傷を負わせる恐れがあります。
- 2.4GHzの無線帯域は見通しが良く区域内に限定されます。大きな物体が送信信号を妨げたりし、制御を失う可能性があるため、常にRCモデルを視界に置いてください。
- 運転中は絶対に送信機のアンテナを握らないでください。信号の品質と強度が大幅に低下し、制御が失われる可能性があります。
- 操作中または使用直後に熱を発生する可能性のあるモデルの部分には触れないでください。エンジン、モーターまたはESCは、非常に高温であり、重度の火傷を負う可能性があります。

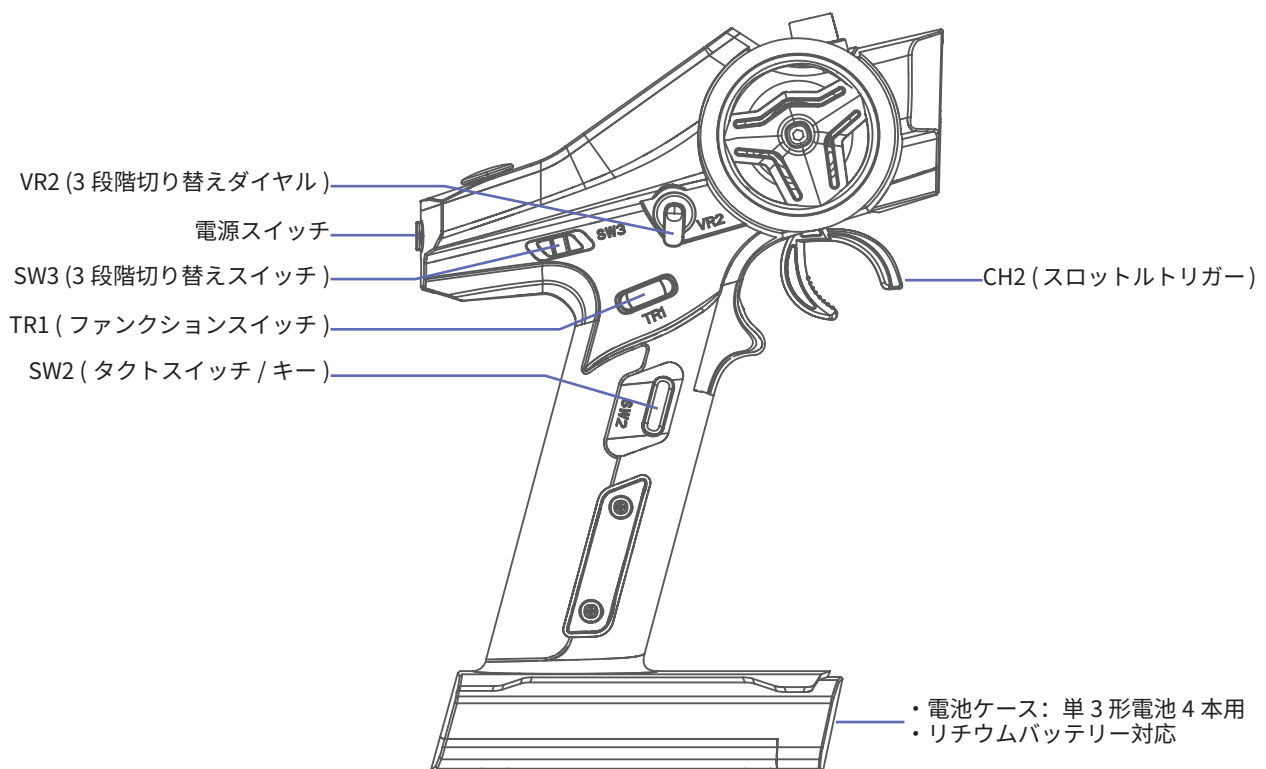
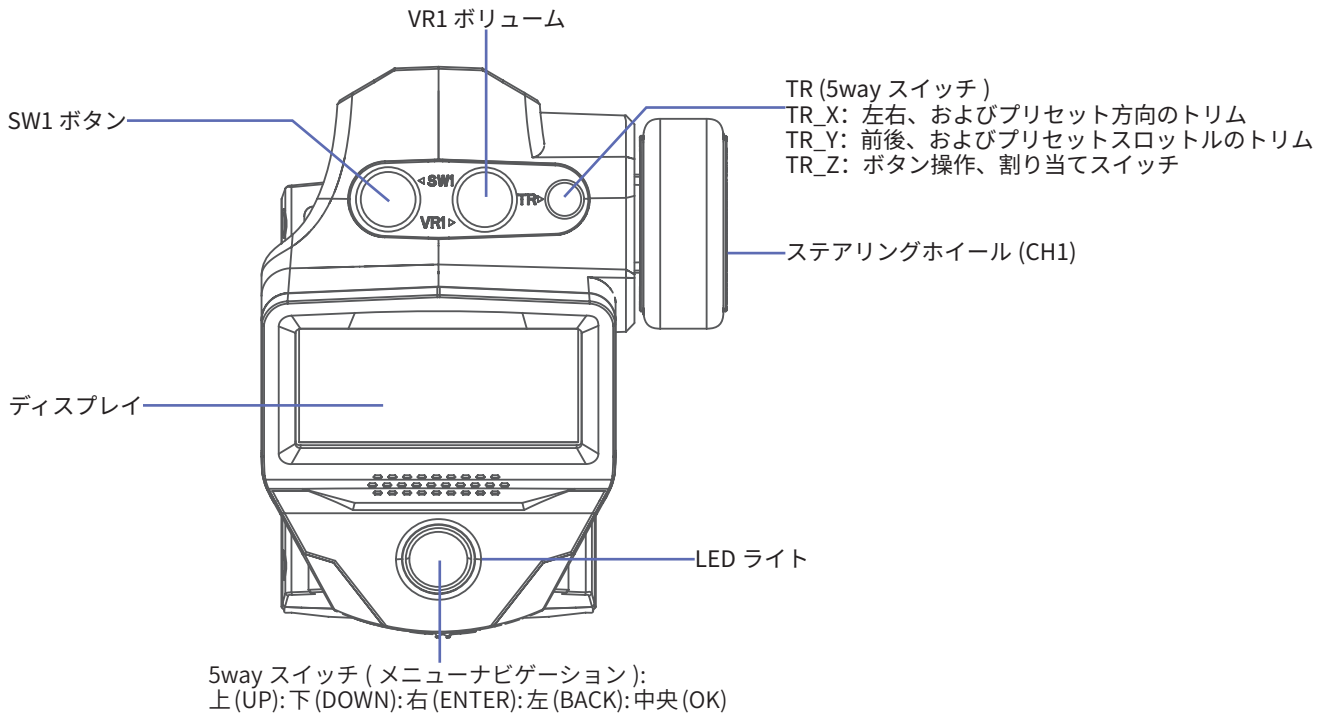


- この製品を間違った方法で使用すると、重傷を負ったり死亡する可能性があります。あなたとあなたの機器の安全を確保するために、この取り扱い説明書を熟読し指示に従ってください。
- 製品がRCモデルに正しく取り付けられていることを確認してください。さもないと、重傷を負う可能性があります
- 送信機の電源を切る前に、必ず受信機側のスイッチを切ってください。意図しない動作や事故の原因となります。
- すべてのサーボが正しい方向に動作していることを確認します。そうでない場合は、サーボを正しく調整してください。
- RCモデルが一定の距離内を走行していることを確認してください。視界を外れると、制御が失われます。

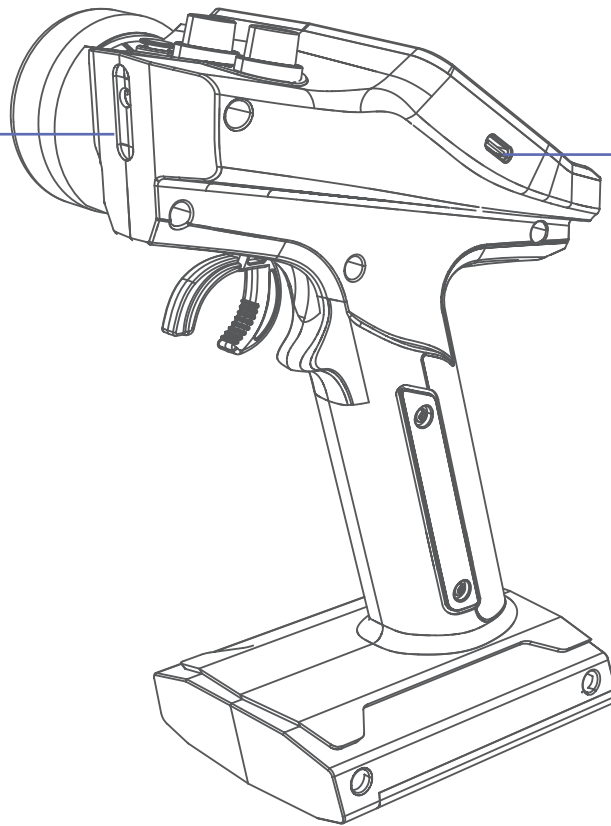
## 2. 送信機の概要

本製品は、2.4 GHz ANT (Ant プロトコル) 対応の自動周波数ホッピング方式を採用したデジタルシステムです。10 チャンネルを出力し、ラジコンカーやボートなどに対応しています。

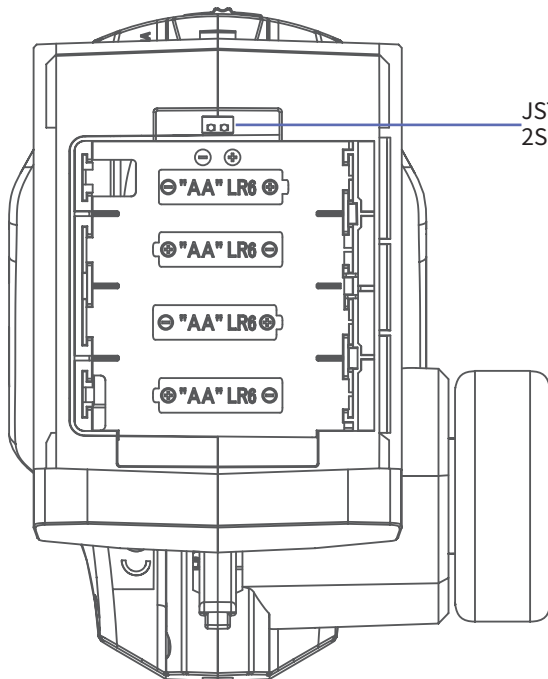
### 2.1 送信機の外観



スマートフォンホルダー  
固定ポート

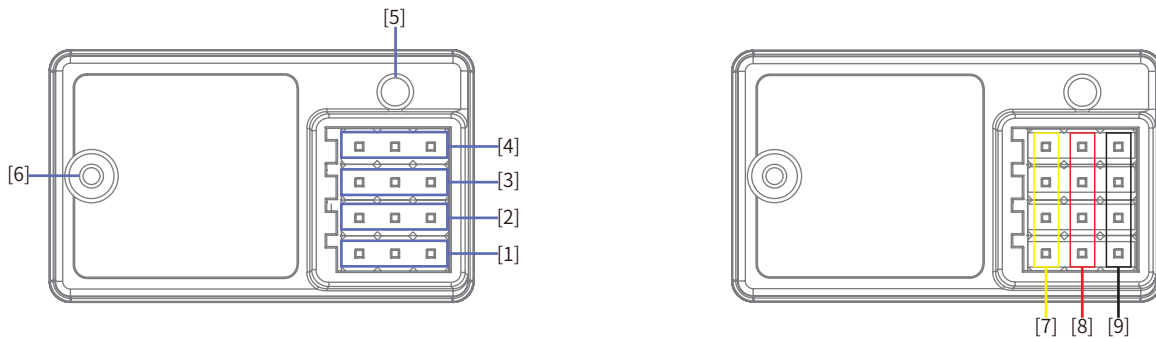


USB Type-C ポート  
ファームウェアアップデート  
USB エミュレーター  
システムへの電源供給



JST ポート  
2S リチウムバッテリーの電源供給コネクタ。

## 2.2 受信機の概要



[1]	CH1
[2]	CH2
[3]	CH3
[4]	CH4
[5]	LED
[6]	アンテナ
[7]	S(Signal Pin)
[8]	"+" (Positive power terminal)
[9]	"-" (Power ground)

### 2.2.1 ステータス LED

LED ステータスは、受信機の電源状態および動作状態を示します。

消灯：受信機の電源が入っていません。

点灯：受信機は正常に動作しています。

高速点滅：受信機がペアリングモードになっています。

低速点滅：ペアリング済みの送信機の電源が切れているか、送信機とペアリングされていないか、または受信機が信号を受信していません。



### 2.2.2 コネクタ

すべてのチャンネルコネクタは 2.54mm×3 ピンコネクタであり、これらを使用して受信機をモデルの各部品に接続します。

注意：接続際は、正常に動作させるため、受信機本体の目印にご注意ください。一部の目印は受信機の側面に表示されている場合があります。誤った接続や機器の破損を防ぐため、方向に従って接続してください。

## 2.3 アンテナ








この受信機はワイヤー型外部アンテナ仕様です。

 <b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受信機のアンテナを引っ張らないでください。アンテナとサーボケーブルを束ねないでください。</li> </ul>
 <b>警告</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンテナを金属の近くに置かないでください。受信機の受信感度に影響を及ぼす恐れがあります。受信機のアンテナは、カーボンや金属などの導電物から少なくとも 1cm 離して設置してください。</li> </ul>

## 3. 使用方法

操作を開始する前に、手順とガイドに従って、バッテリーを取り付け、各機器を接続してください。

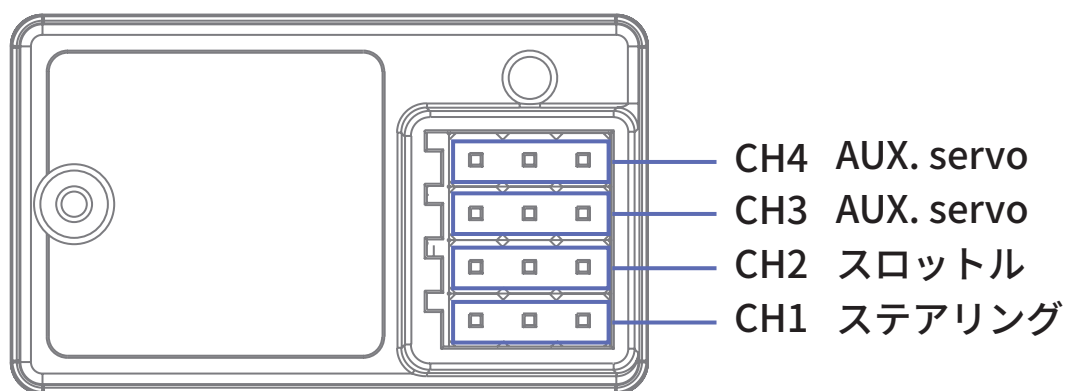
### 3.1 送信機への電源接続について

 警告	・ 規定の電池（単 3 形電池 4 本）のみを使用してください。
 警告	・ バッテリーを開けたり、分解したり、修理を試みたりしないでください
 警告	・ バッテリーを押しつぶしたり、穴を開けたりせず、また外部接点を短絡させないでください。
 警告	・ 高温や液体にさらさないでください
 警告	・ バッテリーを落とさないでください。また、強い衝撃や振動を与えないでください。
 警告	・ バッテリーは常に、涼しく乾燥した場所に保管してください。
 警告	・ バッテリーが破損している場合は絶対に使用しないでください。

電池の種類：単 3 形電池または 2S リチウム電池（電池ケース内に JST コネクタあり）。  
送信機の電池を装着するには、以下の手順に従ってください：

1. 電池ケースの蓋を開けてください。
2. 単 3 形電池 4 本を電池ケースに入れてください。  
電池の端子が、電池ケース内の端子に確実に接触していることを確認してください。  
JST コネクタに接続するには、適切なサイズの 2S 7.4V リチウム電池を選択してください。正しく接続してください。
3. 電池ケースの蓋を閉じてください。

### 3.2 レシーバーとサーボの取り付け




## 4. 取扱説明


セットアップ後、以下の手順に従ってシステムを操作してください。

### 4.1 電源オン

以下の手順に従って、送信機の電源を入れます。

1. バッテリーが完全に充電され、正しく取り付けられていることを確認してください。
2. スイッチを [On] の位置に切り替えてください。画面が点灯します。
3. 受信機の電源を入れてください。

 <b>警告</b>	・ 損傷や怪我を避けるために注意して操作してください。
---	-----------------------------

 <b>警告</b>	・ 安全のため、送信機のスイッチとスロットルを初期位置に設定してください。
---	---------------------------------------

### 4.2 バインディング (ペアリング)

送信機と受信機は、工場で事前にバインドされています。送信機または受信機を別のものと交換する必要がある場合は、以下の手順に従ってバインドを行ってください。他の受信機を使用する必要がある場合は、以下の手順に従って送信機と受信機をバインドします。送信機は ANT2WAY(双方向通信)と ANT1WAY(一方方向通信)の両方をサポートしており、ANT1WAYがデフォルト設定です。

バインドする前に、実際のアプリケーション設定に従って、RF システム、RF スタンダード、RX タイプ、出力、及びチャンネル周波数を設定する必要があります。

本受信機は電源を入れると自動的にペアリングモードに入ります。

1. 送信機の電源を入れ、RX 設定からバインディングスタートを押します。
2. 受信機の電源を入れてから 1 秒間接続がない場合は自動的にペアリングモードに入ります。(LED が高速で点滅します)
3. 受信機の LED が高速点滅から低速点滅に変わった後、送信機を再起動するかペアリングモードを終了してください。この時、受信機の LED が点灯し続ければ、ペアリングが成功したことを示します。
4. 送信機と受信機が正常に動作するか確認してください。再度ペアリングを行う必要がある場合は、上記の手順を繰り返してください。

注：まず送信機をペアリングモードに設定し、次に受信機をペアリングモードに設定してください。10 秒以内にペアリングが完了しない場合、受信機の LED インジケータランプがゆっくり点滅し始めます。

・ この手順は、FS-G7P+ 送信機と FS-R4B 受信機のペアリングにのみ適用されます。ペアリング方法は受信機によって異なります。操作の詳細については、FLYSKY の公式ウェブサイトアクセスし、受信機の取扱説明書やその他の関連情報をご確認ください。
--

・ 本製品は随時更新されていますので、最新の送信機および受信機の互換性リストについては、FLYSKY の公式ウェブサイトをご確認ください。
---

本製品システムは、当社の ANT プロトコル対応受信機モデルと互換性があります。詳細は以下の通りです。

RF 規格 : 2.4 GHz ANT プロトコル

受信機 : FS-R4B

### 4.3 送信機の LED、音、音量の設定

この LED は単色光です。点灯・消灯の状態を設定できます。システムの動作やアラームの音声をオンまたはオフに設定できます。システムの動作とアラームについては、音声を個別に、またはまとめてオン/オフに設定できます。また、

音量も個別に設定できます。設定を行うには、以下の手順に従ってください。

1. 送信機を起動し、SYSTEM メニューに入ります。SYSTEM 設定で、LED、SOUND、VOLUME を設定します。
2. 設定が完了したら、元の画面に戻ります。

## 4.4 キャリブレーション

長期間の使用による物理的な摩耗で送信機のデータにずれが生じた場合、キャリブレーションが必要となります。この際、出力データおよび横移動用ステアリングホイール、スロットルトリガー、VR1、VR2 の中立位置をキャリブレーションする必要があります。

送信機は工場出荷時にキャリブレーション済みです。再キャリブレーションが必要な場合は、以下の手順に従って設定を行ってください

1. 送信機の電源を入れ、システムメニューに入り、スティックキャリブレーション機能を選択します。画面の指示に従って、スタートキーを押してキャリブレーションを開始してください。
2. ステアリングとトリガーを、それぞれ各方向の最大および最小可動範囲まで振り、その後離します。VR1 を最大および最小可動範囲まで回し、その後ニュートラル位置に戻します。VR2 を左右に最大可動範囲まで繰り返し 2～3 回動かします。最後に、VR2 を中立位置に戻します。
3. リターンキーを押してキャリブレーション画面を終了します。これでキャリブレーションは完了です。ポップアップウィンドウにキャリブレーション失敗と表示された場合は、キャリブレーション対象のコントロールが最大・最小可動域に達していなかったか、VR1 および VR2 が中立位置に戻されていないことを意味します。再キャリブレーションが必要です。

## 4.5 工場出荷時へのリセット

送信機のすべての設定とパラメータを工場出荷時状態へ復元するために使用します。

注意：すべてのモデルデータと設定がデフォルトの状態に復元されます。

工場出荷時の設定に戻すには、以下の手順に従ってください

1. 送信機の電源を入れ、システムメニューに入り、工場出荷時設定へのリセット機能を選択します。画面の指示に従って「OK」ボタンを押すと、リセットが開始されます。
2. リセットが正常に完了すると、システムは自動的にシステムメニュー画面に戻り、そのまま表示されたままになります。これは、システムが工場出荷時の設定に復元されたことを示します。

## 4.6 電源オフ

システムの電源を切るには、以下の手順に従ってください

1. 受信機の電源を切ってください。
2. 送信機のスイッチを「OFF」の位置にして電源を切ってください

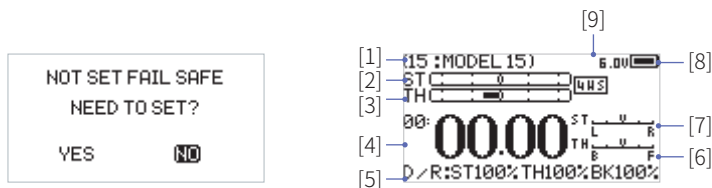


注意

- 送信機の電源を切る前に、必ず受信機の電源を切ってください。失敗時、破損や重傷を負う恐れがあります。

## 5. システムインターフェース

システムインターフェースには、主に送信機の電圧情報、機能ステータスなど、モデルに関連する情報が表示されます。



[1]	モデル名および型番	[6]	スロットルトリム
[2]	ステアリングチャンネル (ST)	[7]	ステアリングトリム
[3]	スロットルチャンネル (TH)	[8]	送信機バッテリー
[4]	タイマー	[9]	信号強度
[5]	デュアルレート (DR)		

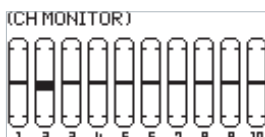
メインインターフェースのタイマー表示領域は、信号強度と BVD 電圧情報を表示するように設定できます。手順は以下の通りです

1. ジョグキーの中央キーを 2 秒間長押しして、タイマー表示領域を選択します。
2. ジョグキーの中央キーを押して「HOME DISPLAY」メニューを開き、「SENSOR」を選択して「OK」を押します。



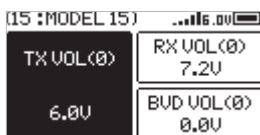
### サブページ 1

電源投入後、メインシステム画面に入り、上矢印キーを押します。リターンキーを押すと、メインシステム画面に戻ります。



### サブページ 2

電源投入後、メインシステム画面に入り、DOWN キーを押してください。Return キーを押すと、メインシステム画面に戻ります。



サブページ 2 に表示するセンサー (名称、ID、値など) を設定できます。設定手順は以下の通りです。

1. システムメイン画面に入り、DOWN キーを押してサブページ 2 を表示します。
2. ジョグキーの中央キーを押して「SELECT SENSOR」メニューを表示し、表示したいセンサーを選択します。



# FLYSKY

## 6. 機能設定

### 機能の説明

本送信機では、機能を分類し、新しいレイアウトを採用しました。アイコンは全部で8つのカテゴリに分類されています。具体的には、セットアップ (SET)、補助チャンネル (AUX.CH)、MIXES、TIMER、スイッチ割り当て (SW ASSIGN)、受信機設定 (RX SET)、MODEL、システムセットアップ (SYSTEM SET) です。この分類により、モデルの設定がより便利で簡単になります。



SET

(SET)	
REV	CH SPEED
EPA	D/R
SUB TR	CURVE
ABS	SUC
IDLE UP	BEGINNER
ENG CUT	



AUX.CH

(AUX.CH)	
CHANNEL3	
CHANNEL4	
CHANNEL5	
CHANNEL6	
CHANNEL7	
CHANNEL8	

(AUX.CH)	
CHANNEL5	
CHANNEL6	
CHANNEL7	
CHANNEL8	
CHANNEL9	
CHANNEL10	



MIXES

(MIXES)	
ST MIXING	
MIX1	
MIX2	
MIX3	
MIX4	
MIX5	



TIMER

(TIMER)	
TIMER	
LAP LIST	



SW ASSIGN

(SW ASSIGN)		
KNOB	SW1	FUN :OFF
SW1	SW2	DIR :NOR
TRIM	SW3	
	TR-Z	



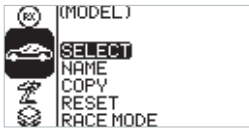
RX SET

(RX SET)	
FAIL SAFE	
BIND SET	
LOW SIGNAL ALARM	
TELEMETRY LOSS	
RANGE TEST	
SENSOR	

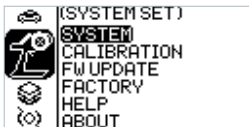
(RX SET)	
LOW SIGNAL ALARM	
TELEMETRY LOSS	
RANGE TEST	
SENSOR	
ESC SET	
FBUS SET	



MODEL



SYSTEM SET



## 機能の説明

メイン画面で、OK キーを押して機能メニューに入ります。上下キーを押して機能カテゴリを選択します。OK キーを押して、対応する次の階層のメニューに入ります。

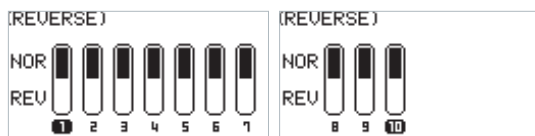
## 6.1 (Reverse) リバース

機能：リバース機能は、システム制御に対してサーボまたはモーターの方向を修正するために使用されます

用途：モデルを設計する際、統一された基準を定めることができない場合があります。モデルを組み立てて動作確認を行うと、動作が想定と逆になっていることが判明することがあります。例えば、右に移動させたいのに左に移動してしまうといったケースです。このような場合、送信機の信号出力を調整する必要があります。チャンネル反転機能を使用することで、各サーボやモーターの動作方向および出力信号を調整することができます。

### 機能設定

1. SET メニューで「REV (チャンネル反転)」機能を選択し、OK キーを押して設定画面に入ります。
2. 上下キーを押して、調整が必要なチャンネルを選択します。OK キーを押して編集モードに入ります。その後、上下キーを押して調整を行います。調整が完了したら、リターンキーを押します。
3. 動作をテストし、サーボまたはモーターの動作方向が、実際に求める方向と一致していることを確認してください。



## 6.2 (EPA) エンドポイントアジャストメント

機能：サーボ出力の可動範囲を調整します。この機能は調整時に使用されます。この機能を使用すると、チャンネルの左右の上下・H・Lの可動範囲を設定できます。

モデルを製作する際、構造のサイズにばらつきがあり、仕様が統一されていない場合があります。また、操作者の慣れた動作の幅にも個人差がある場合があります。EPA 機能を使用すると、各チャンネルに必要な可動量を設定し、モデルを最適に調整して、必要とする操作効果を得ることができます。例：旋回動作をそれほど大きくしたくない場合、両端

# FLYSKY

のステアリングチャンネルの値を小さく調整することができます。これにより、旋回動作が小さくなり、スピンに陥る可能性が低くなります。

## 機能設定

1. SET メニューで「EPA」機能を選択し、OK キーを押します。
2. 上下キーを押して調整が必要なチャンネルを選択します。OK キーを押して編集モードに入ります。その後、上下キーを押して調整を行います。調整が完了したら、リターンキーを押します
3. 動作テストを行い、すべてのサーボまたはモーターの動作方向が、想定される実際の移動量と一致していることを確認してください。

```
(END POINT ADJUST)
ST : L 100 R 100
TH : B 100 F 100
CH3: L 100 H 100
CH4: L 100 H 100
CH5: L 100 H 100
```

## 6.3 (Subtrim) サブトリム

機能：各チャンネルのニュートラルデータを設定・調整します。

この機能は、主に組み立てや調整時のモデルトリムに使用されます。例えば、車両が静止状態で、送信機の操舵ハンドルがニュートラル位置にあるとき、車輪が直進方向からずれていることがわかった場合、この機能を使って簡単に修正することができます。

注：この機能を設定する前に、チャンネルが正しい方向に動いていることを確認してください。

## 機能設定

1. SET メニューで「SUB TR (サブトリム)」機能を選択し、OK キーを押します。
2. UP/DOWN キーを押して調整が必要なチャンネルを選択します。OK キーを押して編集モードに入ります。その後、UP/DOWN キーを押して調整を行います。調整後、リターンキーを押します。
3. 動作テストを行い、設定が正常に動作することを確認してください。

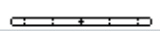
```
(SUB TRIM)
ST :L 000 CH6 :L 000
TH :B 000 CH7 :L 000
CH3:L 000 CH8 :L 000
CH4 :L 000 CH9 :L 000
CH5 :L 000 CH10:L 000
```

## 6.4 (D/R setup) デュアルレート

デュアルレート機能を使用すると、特定のチャンネルの出力値を素早く調整し、最適な操作効果を得ることができます。レート機能では、チャンネル1（ステアリング）、チャンネル2（スロットル・上）、チャンネル2（ブレーキ・下）の出力データレートを設定できます。設定範囲は0～100%です。また、オン/オフの設定も可能です。2つの制御モードは、アプリケーションのスイッチ設定で切り替えることができます。詳細は「キー設定」メニューをご参照ください。

## 機能設定

1. SET メニューで「D/R (デュアルレート)」機能を選択し、OK キーを押します。
2. UP/DOWN キーを押して、調整したいチャンネルを選択します。OK キーを押して編集モードに入ります。その後、UP/DOWN キーを押して調整を行います。調整が終わったら、リターンキーを押します。調整中は、対応するチャンネルのハンドホイールとスロットルトリガーを操作しながら確認してください。
3. 動作テストを行い、設定が正常に動作することを確認してください。

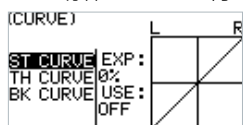
```
(DUAL RATE)
ST RATE : 100% USE : OFF
TH RATE : 100% USE : OFF
BK RATE : 100% USE : OFF
ST 
```

## 6.5 (Curve) カーブ

「カーブ」機能は、ステアリングチャンネル1、スロットルチャンネル2（上）、ブレーキチャンネル2（下）の出力データカーブを調整するために使用されます。設定範囲は -100 から +100 です。これにより、各チャンネルの出力感度を変更できます。設定値が大きいほど、中間位置の感度は高くなり、両端の位置の感度は低くなります。設定値が小さい場合はその逆になります。

### 機能設定

1. SET メニューでカーブを選択し、OK キーを押します。
2. UP/DOWN キーを押して調整するチャンネルを選択します。OK キーを押して編集モードに入ります。UP/DOWN キーを押して EXP を選択し、OK キーを押します。その後、UP/DOWN キーを押してデータを調整します。調整後、リターンキーを押します。この機能を有効にする必要がある場合は、UP/DOWN キーを押して「USE」項目を選択し、OK キーを押して編集状態に入ります。UP/DOWN キーを押してオンに切り替えます。その後、リターンキーを押します。
3. 動作テストを行い、設定が正常に動作することを確認してください。



## 6.6 (SVC) ジャイロ機能

SVC 機能は FS-R7V 受信機と併用してください。

USE: 機能のオン / オフを切り替えます。

MESIAN CAL(ニュートラルキャリブレーション): ジャイロスコープを使用してステアリングとスロットルのニュートラル位置をキャリブレーションし、車両が通常走行時に最適な走行状態になるようにします。

ジャイロを使用し、ステアリングとスロットルニュートラルを調整して、車両が正常に操舵できる最適の条件を作ります。

SVC 機能を有効にする前に、車両のステアリングサーボの最大動作角度、ニュートラル調整、スロットルのニュートラル調整をとり、最適な操作条件に調整する必要があります。

完了後、ニュートラルキャリブレーションの [SVC] 機能を開始します。

注意として、トリムカーブやスロットルカーブ等、調整変更するたびに、ニュートラルポジションを調整する必要があります。

ステアリングとスロットルは、キャリブレーション中はニュートラルの静止状態にする必要があります。

ESP モード: モデルの安定性を向上させるために使用します。ノーマル / ロックの 2 つのモードがあります。

[ノーマル]: モデルアシストのジャイロによる車体の安定性を保持する際に使用します。

ノーマル / ロックの 2 つのモードが利用可能です。

[ノーマル]: 車両がヨーイングまたはステアリングを切っているとき、ジャイロは自動的に反対の補正をかけてサーボを制御し、生成された角速度に応じてサーボを安定させ、ドリフトを制御します。

[ロック]: ステアリングホイールが中心に戻ると、ジャイロスコープは車両がヨーイングしているときのヨー角に応じてサーボを反対方向に制御し、進行方向に戻します (「ロックモード」でハンドルが中心に戻らない場合は、「ノーマルモード」と同じです)。

リバース: ジャイロスコープがステアリングチャンネルと逆転する場合に動作方向を補正設定できます。

ST ゲイン: ミキシングステアリングチャンネルの感度を変更するために使用されます。

設定範囲は 0 ~ 100% です。

# FLYSKY

TH ゲイン: ミキシングスロットルチャンネルの感度を変更するために使用されます。  
設定範囲は 0~100% です。

優先機能: ステアリングのハンドル制御とジャイロとの制御比について、ステアリングホイールをきった方向での、ジャイロスコープのミキシングの影響で操舵角が少なくなります。

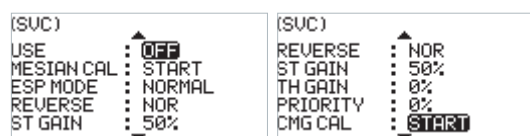
値が 0% の場合、ジャイロの介入が最も強く、逆操舵が最大になります。

値が 100% の場合、ジャイロ介入は 0 となり、普通にハンドルがきれる状態となります。

CMG CAL( ジャイロスコープ キャリブレーション ): 初めてジャイロ対応受信機に交換後に必要なジャイロのキャリブレーションを有効にします。モデルは安定した静止状態にしてください。[CMG CAL] を選択します。受信機の LED が 2 回点滅し、送信機側にキャリブレーションが成功したことを示すメニューが表示されます。

## 機能設定

1. SET メニューで「SVC」機能を選択し、OK キーを押します。
2. 上下キーを押して、調整したい機能項目を選択します。OK キーを押して編集モードに入ります。その後、上下キーを押してデータを調整するか、適切な項目を選択します。調整が終わったら、リターンキーを押します。この機能を有効にする場合は、UP/DOWN キーを押して「USE」項目を選択し、OK キーを押して編集モードに入ります。UP/DOWN キーを押して「ON」を選択し、機能を有効にします。その後、リターンキーを押します。

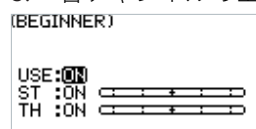


## 6.7 初心者向け設定 — ビギナーモード

ビギナーモードは、方向チャンネルおよびスロットルチャンネルの出力を制限する機能です。

本機能を有効にすると、各チャンネルの出力は \*\*50% \*\* に制限されます。これにより、速度や舵角が抑えられ、初心者でも車両を容易かつ安全に操作することができます。

1. SET メニューで [BEGINNER] 機能を選択し、[OK] ボタンを押します。
2. [UP/DOWN] ボタンを押して調整したい項目を選択し、[OK] ボタンを押して設定状態に入ります。続いて [UP/DOWN] ボタンで設定を調整し、調整後は [RETURN] ボタンを押します。
3. 各チャンネルの出力が、設定したとおり正常に動作していることをテストして確認してください。



## 6.8 (ABS) アンチロック・ブレーキ

ABS 機能はパルスブレーキを設定するための機能です。

ブレーキ操作時に、ブレーキを周期的に解除することで、タイヤのロックによるスキッド、ドリフト、アンダーステアを防止します。

ABS 機能には、以下の 7 つの設定項目があります。

USE/RETURN/DELAY/CYCLE/POINT/DUTY/ST MIXING

USE: ABS 機能の ON/OFF を切り替えます。

ON にすると機能が有効になります。初期設定は OFF です。

RETURN: 各パルス時におけるブレーキ解除量を設定します。

設定範囲は 0 ~ 100% (1%刻み)、初期値は 50% です。

DELAY: ABS が作動を開始するまでの遅延時間を設定します。

設定範囲は 0 ~ 100% (1%刻み)、初期値は 0% です。

- ・ 0%: ブレーキ操作と同時に ABS が作動・数値を大きくするほど、ABS が効き始めるまでの時間が長くなります。
- ・ 100%: 最大約 2 秒の遅延が発生します。

CYCLE: パルスブレーキの \*\* 間隔 (周期) \*\* を設定します。

設定範囲は 20 ~ 100% (1%刻み)、初期値は 50% です。

- ・ 数値が大きいほど、パルス間隔は長くなります。
- ・ 100%に設定した場合、パルス間隔は 0.5 秒となります。

POINT: パルスブレーキが作動を開始するブレーキトリガー位置を設定します。

設定範囲は 10 ~ 100% (1%刻み)、初期値は 30% です。

- ・ 数値が高いほど、フルブレーキに近い位置で ABS が作動します。
- ・ 0 ~ 100%は、スロットルトリガーの全可動範囲を示します

DUTY: パルスブレーキにおけるブレーキ時間と解除時間の比率を設定します。

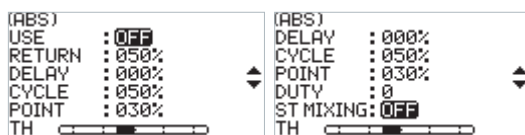
設定範囲は -4 ~ +4、初期値は 0 です。

- ・ 0: ブレーキと解除の時間比は 1: 1
- ・ 1: 解除時間が長くなり 1: 2
- ・ -1: ブレーキ時間が長くなり 2: 1

設定値を変更すると、ブレーキパルスの波形 (ピーク / 谷) の長さが変化します。

### 機能設定

1. SET メニューで「ABS」機能を選択し、OK キーを押します。
2. UP/DOWN キーを押して、調整したい項目を選択します。OK キーを押して編集モードに入ります。その後、UP/DOWN キーを押して調整を行います。調整が完了したら、リターンキーを押してください。
3. 動作テストを行い、設定が正常に動作することを確認してください。



## 6.9 アイドルアップ (IDLE UP) エンジンカー用

アイドルアップ機能は、エンジンカーがニュートラル位置にあり、アイドル回転状態より少し上げて調整するための機能です。

アイドル回転数を上げて調整することで、エンスト（エンジンストール）を防ぐことができ、エンジンをかけやすい設定になります。

IDLE UP 機能には、以下の3つの設定項目があります。

USE/TYPE/RATE

USE: 機能のオン / オフを切り替えます。

TYPE: TYPE は NORMAL と LOCKING の2つのモードから選択します。

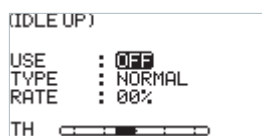
- NORMAL モード: トリガーを後方に引くとチャンネル出力は引き続き減少します。
- LOCKING モード: トリガーを後方に引いても出力は設定した値に固定されます。スロットルトリガーを前方（ブレーキ側）に押し、チャンネルデータは減少し続けます。

RATE: アイドルアップ量を設定します。

設定範囲は -50% ~ +50% (1%刻み) で、初期値は 0% です。

機能設定

1. SET メニューで [IDLE UP] 機能を選択し、[OK] ボタンを押します。
2. [UP/DOWN] ボタンを押して調整したい項目を選択し、[OK] ボタンを押して設定状態に入ります。
3. 動作テストを行い、設定が正常に動作することを確認してください。



## 6.10 エンジンカット (ENG CUT)

エンジンカット機能が作動すると、スロットルチャンネルはあらかじめ設定された固定値（つまり、エンジンのキャブレターを全閉位置にしてエンジンを止めます）それにより、スロットルトリガーによる操作は無効になります。

ENG CUT 機能には、以下の2つの設定項目があります。

USE / RATE

USE: エンジンカット機能の ON/OFF を切り替えます。

RATE: エンジンカット時に出力される固定スロットル値を設定します。

設定範囲は -100% ~ +100% (1%刻み) で、初期値は 0% です。

機能設定

1. SET メニューで [ENG CUT] 機能を選択し、[OK] ボタンを押します。
2. [UP/DOWN] ボタンを押して調整したい項目を選択し、[OK] ボタンを押して設定状態に入ります。
3. 動作テストを行い、設定が正常に動作することを確認してください。



## 6.11 チャンネルスピード (CH SPEED)

この機能では、ステアリング速度、前進速度、ブレーキ（後進）速度を個別に設定できます。遅延時間の設定範囲は 0.00 秒～ 10.00 秒で、初期値は 0.00 秒です。調整ステップは 0.02 秒です。

ST（ステアリング）：

ステアリングの応答速度を設定します。

ステアリングホイールを切る方向と、ニュートラル位置へ戻る方向の速度をそれぞれ個別に設定できます。

FRONT（前進）：

前進時のスロットル応答速度を設定します。

スロットルトリガーを前進側に操作したときと、ニュートラル位置へ戻すときの速度をそれぞれ個別に設定できます。

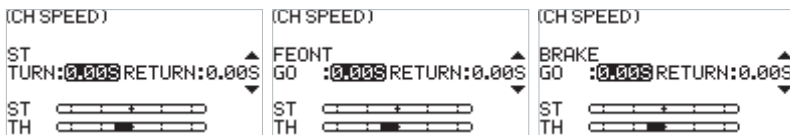
BRAKE（ブレーキ / 後進）：

後進またはブレーキ時の応答速度を設定します。

スロットルトリガーを後方（ブレーキ / 後進側）に操作したときと、ニュートラル位置へ戻すときの速度をそれぞれ個別に設定できます。

機能設定

1. SET メニューで [CH SPEED] 機能を選択し、[OK] ボタンを押します。
2. [UP/DOWN] ボタンを押して調整したい項目を選択し、[OK] ボタンを押して設定状態に入ります。
3. 各チャンネルの出力が、設定したとおり正常に動作していることをテストして確認してください。



## 6.12 AUX.CH 補助チャンネル (CH3 ~ CH10)

様々な、付加機能を備えた一部のモデルに対応するため、この送信機はステアリング（1 CH）とスロットル（2 CH）以外に、最大 8 チャンネルの補助チャンネルを備えています。

補助チャンネル機能では、CH3 ~ CH10 の制御設定を行い、各チャンネルに操作系を割り当てて使用します。

機能設定

1. AUX.CH メニューで [CH3 ~ CH10] を選択し、[OK] ボタンを押します。
2. [UP/DOWN] ボタンを押して調整したい項目を選択し、[OK] ボタンを押して設定状態に入ります。
3. [UP/DOWN] ボタンで設定を調整し、調整後は [RETURN] キーを押します。
4. 動作テストを行い、設定が正常に動作することを確認してください。



## 6.13 ミキシング (Mixes)

ミキシング機能は、2つのチャンネルを連動させて動作させる必要があるモデルで使用されます。本機能では、ステアリングミックス 1 系統と、プログラム可能なミックス 5 系統を備えています。

### 機能設定

メイン画面で [OK] ボタンを押して機能メニューに入ります。

[UP/DOWN] ボタンを押して [MIXES] メニューを選択し、[OK] ボタンを押すと設定状態に入ります。



## 6.14 ステアリングミキシング (Steering Mixes)

ステアリングミキシングは、ステアリング専用のミキシング機能です。

ST MIXING (ステアリングミキシング) では、TRACK (トラック用) ミキサーと 4WS ミキサーの 2 種類のミキシング方式を提供します。

4WS ミキサーでは、前輪と後輪の操舵方式を 4 種類用意しており、(通常操舵、4 輪操舵、同位相、逆位相等) 車両の用途や走行シーンに応じた設定が可能です。

### 機能設定

1. MIXES メニューで [ST MIXING] を選択し、[OK] キーを押します。
2. [UP/DOWN] ボタンを押して調整したい項目を選択し、[OK] ボタンを押して設定状態に入ります。  
[UP/DOWN] ボタンで設定を調整し、調整後は [RETURN] キーを押します。
3. 動作テストを行い、設定が正常に動作することを確認してください。

(ST MIXING)  
TYPE: 4WS MODE: FR-R  
CH : CH3 RATE: 100%



(ST MIXING)  
TYPE: TRACK  
F : 100% B : 100%  
L : 100% R : 100%  
ST: \_\_\_\_\_  
TH: \_\_\_\_\_

## 6.15 プログラムミキシング (Programming Mixes)

プログラムミキシング機能は、任意のチャンネルの出力データを、指定した割合で別のチャンネルにミキシングするための機能です。

これにより、目的に応じたミキシング動作を実現できます。

### 機能設定

1. MIXES メニューで [MIX] を選択し、[OK] キーを押します。
2. [UP/DOWN] ボタンを押して調整したい項目を選択し、[OK] ボタンを押して設定状態に入ります。[UP/DOWN] ボタンで設定を調整し、調整後は [RETURN] キーを押します。
3. 動作テストを行い、設定が正常に動作することを確認してください。

(MIXES1)  
USE: ON  
MASTER: DIR HIGH : 100%  
SLAVE : CH3 LOW : 100%  
OFFSET: 0%  
M: \_\_\_\_\_  
S: \_\_\_\_\_

## 6.16 タイマー設定 (Timer)

タイマーメニューには、TIMERとLAP LISTの2つの機能があります。

機能の設定

メイン画面で [OK] ボタンを押して機能メニューに入ります。

[UP/DOWN] ボタンでTIMERメニューを選択し、[OK] ボタンを押して編集状態に入ります。

## 6.17 タイマー (Timer)

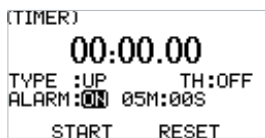
タイマー機能は、レース時の計測に使用され、カウントアップ、カウントダウン、ラップカウントに対応しています。また、燃料タンク1回分やバッテリー1本分の使用時間を測定する用途にも使用できます。

アラーム設定では、タイマー動作中にアラームが鳴るタイミングを設定できます。

例として05分00秒(05M00S)に設定した場合、カウントダウンが5分に達した時点でアラームが作動します。

機能の設定

1. TIMERメニューで[TIMER]を選択し、[OK]キーを押します。
2. [UP/DOWN]ボタンを押して調整したい項目を選択し、[OK]ボタンを押して編集状態に入ります。[UP/DOWN]ボタンで設定を調整し、調整後は[RETURN]ボタンを押します。
3. 動作テストを行い、設定が正常に動作することを確認してください。



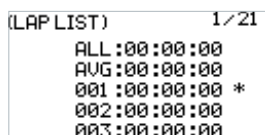
## 6.18 タイマー / ラップリスト (Lap List)

このデータ表示画面は、ラップカウント機能を使用している場合のみ表示されます。

総走行時間、最速ラップタイム、平均ラップタイムを確認することができ、走行内容の判断や調整を行うことで、最終的により良い結果を得ることができます。

ラップタイムのスタート / ストップは、キー設定 (Key Setting) メニューから設定できます。詳細はキー設定メニューを参照してください。

ジョグキーの中央ボタンをポップアップメニューが表示されるまで長押しし、その後 [OK] を選択してから、再度中央ボタンを押すと、タイマー / ラップリストがクリアされます。



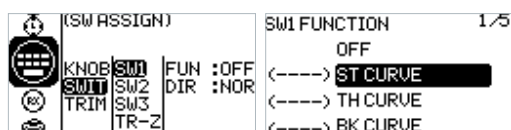
## 6.19 スイッチ割り当て (Switch Assignment)

キー設定機能は、各種機能にスイッチを割り当てることで、指定したスイッチ操作によって必要な動作出力を制御できるようにする機能です。

割り当て可能な操作タイプには、トリム (Trim) ・スイッチ (Switch) ・ノブ (Knob) があります。

機能の設定

1. SW ASSIGN (スイッチ割り当て) メニューを選択し、割り当てたい項目を選んでOKボタンを押します。
2. UP/DOWN ボタンで調整したい項目を選択し、OKボタンを押して編集状態に入ります。その後、UP/DOWN ボタンで設定を変更し、完了したら戻るボタンを押します。
3. 動作テストを行い、設定が正常に動作することを確認してください。



## 6.20 受信機設定 (Receiver Settings)

この受信機設定メニューでは、受信機システムをあらゆる面から設定できる各種機能メニューについて説明します。設定可能な項目は以下の通りです。

・FAILSAFE (フェイルセーフ) ・BIND SET (バインド設定) ・LOW SIGNAL ALARM (低信号アラーム) ・TELEMETRY LOSS (テレメトリー喪失) ・RANGE TEST (通信距離テスト) ・SENSOR (センサー) ・ESC SET (ESC 設定) ・I-BUS SET (I-BUS 設定) (FLYSKY 社独自の 2.4 ギガ、シリアルプロトコル)

### 機能の設定

メイン画面で OK ボタンを押して機能メニューに入ります。

UP/DOWN ボタンで RX SET メニューを選択し、OK ボタンを押すと受信機設定画面に入ります。



## 6.21 フェイルセーフ (Failsafe)

フェイルセーフ機能は、受信機が送信機との電波通信制御を失い、操作不能になった場合に使用されます。

あらかじめ設定されたフェイルセーフ値に従って各チャンネルを出力することで、モデルおよび周囲の人の安全を保護します。(例: ブレーキ、エンジンをストップ、ステアリングロックすることができます。)

### RESPONSE TIME (応答時間)

フェイルセーフが作動すると判断するまでの時間を設定します。

設定範囲は 250ms ~ 1000ms、初期設定は 300ms です。(ほぼ瞬時での作動)

### 機能の設定

OK ボタンを押して編集状態に入り、UP/DOWN ボタンでフェイルセーフの判定時間を設定します。設定が完了したら、戻るボタンを押してください。

**i-BUS/PPM/PWM 信号については、Not Set/OFF/ON のいずれかを設定できます。**

Not Set: フェイルセーフが設定されていない状態です。操作不能(電波断)時には出力しません。

OFF: i-BUS/PPM/PWM チャンネルは出力されません。

ON: i-BUS/PPM/PWM チャンネルが、それぞれ設定された値を出力します。

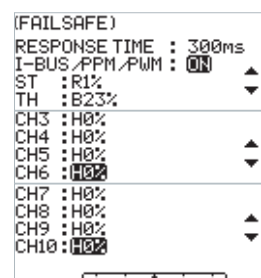
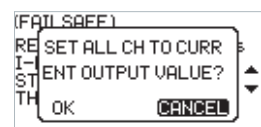
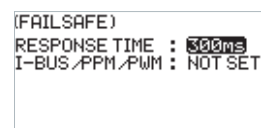
チャンネル 1 ~ 10 まで個別に値を設定できます。初期値は、現在のチャンネル出力値がそのまま設定されます。

### 設定手順

1. FAILSAFE メニューで、UP/DOWN ボタンを使って [I-BUS/PPM/PWM: NOT SET] を選択します。
2. OK ボタンを押して編集状態に入り、[ON] を選択します。すると確認画面が表示されるので、各操作系を希望の位置に合わせ、必要に応じてそのまま保持します。確認画面で [OK] を選択すると、すべてのチャンネルのフェイルセーフ値設定が完了します。
3. 個別のチャンネルを設定する場合は、設定したいチャンネルを選択し、OK ボタンを押して編集状態に入ります。
4. 適切な値を選択する、または操作系を希望の位置に合わせて保持した状態で、戻るボタンを押します。

### 注意事項

1. S.BUS 信号にはフェイルセーフ用のフラグビット情報が含まれているため、出力停止状態ではなく、そのフェイルセーフフラグビットを通じてフェイルセーフ情報を機器へ伝達できます。接続された機器は、このフェイルセーフフラグビットの解析結果に基づいて動作します。
2. PWM/PPM/i-BUS 信号のようにフェイルセーフフラグビットを持たない信号については、フェイルセーフ発生時に出力信号を OFF に設定することが可能です。出力を停止することで、フェイルセーフ情報を接続した機器へ伝達します。
3. 初期設定は Not Set となっており、この状態では RC 信号が失われた場合、受信機は出力を行いません。



## 6.22 バインド（ペアリング）設定（Bind Settings）

送信機と受信機は、出荷時にすでにバインド（接続設定）されており、そのまま使用できます。受信機を交換する場合は、通常動作させる前に、バインド機能を使用して新しい受信機と送信機をバインドする必要があります。設定項目として、RF システム、RF タイプ、受信機タイプ、出力モード、周波数の5つのパラメータと、BIND ボタンが用意されています。

### RF SYS（RF システム）

「Fast」と「Routine」から選択します。

- ・ Routine モード：送信機の RF システムを Routine に設定すると、同一環境・近距離で使用される他のモデルに対して高い耐干渉性能を発揮します。
- ・ Fast モード：送信機の RF システムを Fast に設定すると、同一環境・近距離で使用される同型送信機との共存性が高く、低遅延での操作が可能です。

### RF type（RF タイプ）

「ANT1WAY（一方方向）」と「ANT2WAY（双方向）」の2種類があります。双方向受信機を使用する場合は、より多くの情報フィードバックが得られる ANT2WAY（双方向）を推奨します。

#### ・ ANT1WAY（一方方向）

送信機から受信機へ一方方向で信号を送信します。受信機は送信機からの指令を受けて動作するのみで、同一場所で多人数が使用する場合でも干渉が少ないという利点があります。

#### ・ ANT2WAY（双方向）

送信機と受信機が相互通信を行います。対応機能を設定することで、モデルの基本情報をリアルタイムで送信機に表示できます。例えば、車両バッテリー電圧を知りたい場合、このモードを有効にし、対応受信機をバインドすることで、送信機画面上で電圧を確認できます。

### Receiver type（受信機タイプ）

使用する受信機に応じて、以下の2種類から選択します。

- ・ 標準受信機（Standard Receiver）
- ・ 2-in-1 受信機（ESC 内蔵受信機）

標準では通常の実受信機が使用されます。対応機種の詳細については、メーカー公式サイトもしくは弊社にご連絡ください。

### Output mode（出力モード）

以下の4種類の出力モードから選択できます（2方式の組み合わせ）

- ・ PWM/SBUS
- ・ PPM/IBUS
- ・ PWM/IBUS
- ・ PPM/SBUS

使用環境や機器構成に応じて選択してください。

### Servo frequency（サーボ周波数）

サーボの種類に応じて、以下の3種類から選択します。各項目の後に表示される数値は、サーボ出力周波数を表します。

- ・ アナログサーボ：60Hz
- ・ デジタルサーボ：333Hz
- ・ その他のサーボ：50Hz～400Hz

### 機能の設定

1. BIND SET メニューで、UP/DOWN ボタンを押して調整したい項目を選択し、OK ボタンを押して編集します。UP/DOWN ボタンで希望の値を設定し、OK ボタンを押して確定します。
2. すべての設定が完了したら、UP/DOWN ボタンで START を選択し、OK ボタンを押して受信機とバインドを行います。
3. 詳細な手順については、バインド操作の章およびクイックスタートガイドを参照してください。設定完了後、すべてのチャンネル出力が正常に動作しているかテストしてください。

(BIND)		(BIND)	
RF SYS	: Routine	RF STD	: ANT 2 WAY
RF STD	: ANT 2 WAY	RX TYPE	: STANDARD
RX TYPE	: STANDARD	OUTPUT	: PWM/IBUS
OUTPUT	: PWM/IBUS	FREQUENCY	: ANALOG
FREQUENCY	: ANALOG	BINDING	: START

## 6.23 電波信号低下警告 (LOW SIGNAL ALARM)

この機能は、送信機と受信機が双方向通信モードで通信している際の、信号強度低下アラームを設定するために使用します。

信号強度のアラームがある一定の数値より低くなると、アラーム音の有効 / 無効、繰り返しアラームの有無および繰り返し間隔を設定できます。

アラーム機能を設定すると、受信機の信号強度が設定値より低下した場合、設定内容に従って送信機が低信号アラームを発します。

### 機能設定

1. LOW SIGNAL ALARM メニューで [USE] > [ON] を選択し、戻るボタンを押します。UP/DOWN ボタンで [Sound] を選択し、OK ボタンを押して編集状態に入ります。
2. UP/DOWN ボタンで [ON] または [OFF] を選択し、戻るボタンを押します。UP/DOWN ボタンで [ALARM VAL] を選択し、OK ボタンを押して編集状態に入ります。
3. UP/DOWN ボタンで適切な値を設定し、戻るボタンを押します。UP/DOWN ボタンで [REPETITION] を選択し、OK ボタンを押して編集状態に入ります。
4. UP/DOWN ボタンで適切な時間を設定し、戻るボタンを押します。

```
(LOW SIGNAL ALARM)
USE      : OFF
```

```
(LOW SIGNAL ALARM)
USE      : ON
SOUND    : OFF
ALARM VAL : 40
REPETITION : 10S
```

## 6.24 テレメトリー信号損失 (TELEMETRY LOSS)

この機能は、送信機が受信機から返送されるテレメトリー情報を受信できなくなった場合に作動するアラームを設定します。

[TELEMETRY LOSS] の有効 / 無効、[SOUND] の有効 / 無効、およびアラームを作動させるまでの時間 (感度) を設定できます。

### 機能設定

1. TELEMETRY LOSS メニューで [USE] → [ON] を選択し、戻るボタンを押します。
2. UP/DOWN ボタンで [Sound] を選択し、OK ボタンを押して編集状態に入ります。[ON] または [OFF] を選択し、戻るボタンを押します。
3. UP/DOWN ボタンで [SENSITIVITY] を選択し、OK ボタンを押して編集状態に入ります。UP/DOWN ボタンで適切な時間を設定し、戻るボタンを押します。

```
(TELEMETRY LOSS)
USE      : OFF
```

```
(TELEMETRY LOSS)
USE      : ON
SOUND    : OFF
SENSITIVITY : 3.0S
```

## 6.25 電波到達距離テスト (Range Test)

レンジテストは非常に重要な機能であり、毎回の操作前に実施することを推奨します。送信機や受信機が正常に動作しているか、また周囲の電波環境に問題がないかを確認するためのテストです。

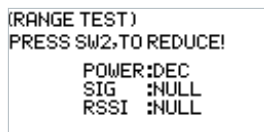
動作原理

送信機の出力を意図的に低下させ、短距離での通信テストを行うことで、送信機システムおよび使用環境を迅速に確認します。

テスト中は、送信機画面に出力 (Power) ・ 信号 (Signal) ・ RSSI の 3 つのパラメータが表示されます。

機能の設定

1. RANGE TEST メニューで、SW2 キーを押すとテストが開始されます。
2. テスト中は送信機を動かさずに保持してください。モデル (車体) は動かして確認しても問題ありません。一定距離内で異常がなければ、通常どおり使用できます。



## 6.26 センサー (Sensor)

双方向通信システムにおける便利な機能として、センサーを使用することで、受信機を通じて必要な各種情報を送信機へフィードバックできます。

本送信機は、最大 15 種類のテレメトリーデータの受信に対応しており、以下の 7 つの基本パラメータを表示できます。

・ TX VOL: 送信機電圧 ・ RX VOL: 受信機電圧 ・ BVD VOL: BVD 電圧 ・ SIGNAL: 信号強度 ・ NOISE: ノイズ量 ・ SNR: S/N 比 (信号対雑音比) ・ RSSI: 受信信号強度

BVD は外部電源を検出するための項目です。

バッテリー電圧を監視し、異常時にアラームを出す用途での使用を推奨します。

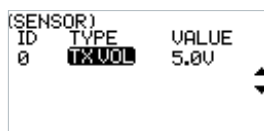
機能の設定

SENSOR メニュー内で、UP/DOWN ボタンを押してページを切り替えることで、各種情報を確認できます。

注意事項

本送信機は i-BUS センサーに対応しています。

対応センサー例: FS-CPD01 磁気式速度センサー :FS-CPD02 光学式速度センサー :FS-CVT01 電圧センサー :FS-TM01 温度センサー :FS-CAT01 高度センサー 等



## 6.27 ESC アンプ設定 (ESC Settings)

ESC SET (ESC 設定) メニューは、FLYSKY 製 2-in-1 ESC (受信機一体型 ESC) 専用に用意された追加オプションです。2-in-1 ガバナーをより正確に設定し、最適な性能を発揮させるために使用します。

この設定を有効にするには、

受信機設定 → バインド設定 (Bind Settings) メニューで、受信機タイプを 2-in-1 に切り替える必要があります。

ここでは、以下の 3 つのパラメータを設定できます。

- ・ 動作モード ・ バッテリータイプ ・ ドラッグブレーキ力

ブレーキモード

以下の 2 種類のブレーキモード から選択できます。

1. FOR / BRK / REV モード

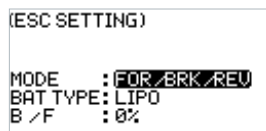
- ・ トリガーを引くと前進
- ・ トリガーを押し戻すとブレーキ ・ ニュートラルに戻してから、再度トリガーを押し戻すと後進

## 2.FOR / REV モード (前進 / 後進)

- ・ トリガーを引くと前進 ・ トリガーを押し戻すと即座に後進
- これらのモードは、使用状況や好みに応じて選択できます。

### 機能の設定

1. IESC SET メニューで、UP/DOWN ボタンを押して調整したい項目を選択し、OK ボタンを押して編集します。  
UP/DOWN ボタンで希望の値を設定し、OK ボタンを押して確定します。
2. 動作テストを行い、設定が正常に動作することを確認してください。



## 6.28 受信機設定 i-BUS 設定 (FS-CEV04)

i-BUS SET (i-BUS 設定) 機能は、FLYSKY が提供する独自で高機能なシリアル通信プロトコルシステムです。設定により、任意のチャンネルへ出力を割り当てることができます。

i-BUS インターフェースを備えた受信機および対応アクセサリについては、シリアルバス受信機の説明をご参照ください。

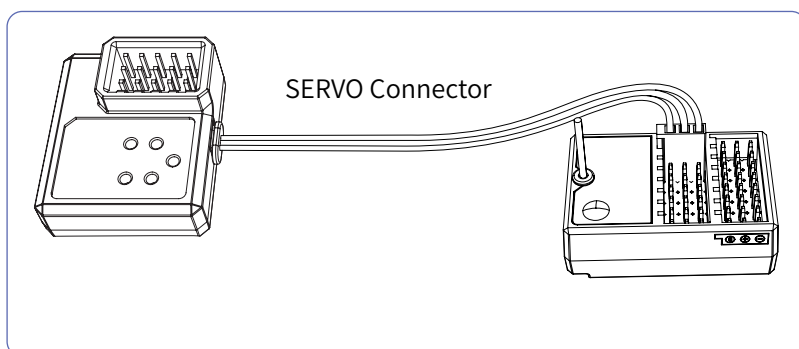
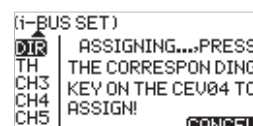
### 機能の設定

1. 送信機と受信機のバインドが正常に完了していることを確認します。
2. FS-CEV04 シリアルバス受信機の入力ケーブルを、受信機の SERVO ポート に接続します。
3. サーボを FS-CEV04 シリアルバス受信機の C1 ~ C4 ポート に接続します。
4. 送信機の電源を入れ、i-BUS SET 画面に入って割り当てるチャンネルを選択します。チャンネル選択を間違えた場合は、「CANCEL」を選択して再設定してください。

注意：画面に「RF タイプを先に ANT TWO WAY に設定してください」と表示された場合は、先に RF タイプを ANT TWO WAY に変更してください。

5. i-BUS 受信機側の該当するボタンを押します。設定が成功すると、ポップアップ画面が表示され、現在選択されているチャンネルが i-BUS 受信機に割り当てられたインターフェース番号として表示されます。
6. 追加でチャンネルを設定する場合は、上記手順を繰り返してください。

注意：受信機に過負荷がかかる場合は、過電流による配線の焼損を防ぐため、別途電源を供給してください。



FS-CEV04 Connection Diagram(FS-R11P)

## 6.29 モデル (MODEL)

モデルに関する各種機能を設定します。

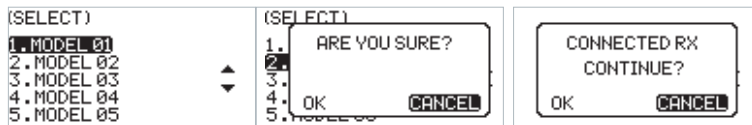
### モデル選択

モデルの選択および切り替えを行います。FS-G7P+ は最大 20 モデルまで保存できます。

モデル選択後、UP/DOWN ボタンでリストからモデルを選択し、OK ボタンを押します。

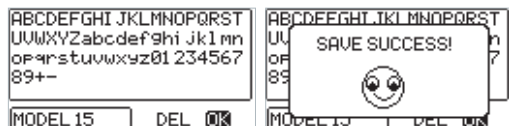
すると確認用のポップアップウィンドウが表示されますので、UP/DOWN ボタンで [OK] を選択し、設定を保存します。

- ・送信機が受信機と双方向通信中の場合、安全確認のポップアップウィンドウが表示されます。
- ・その際、表示されるウィンドウで「OK」を選択すると、モデルの切り替えが正常に完了します。



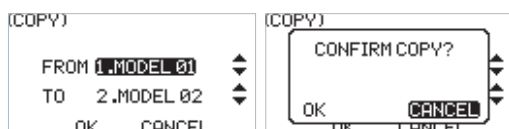
### モデル名

- ・現在のモデルの名前を設定します。
- ・選択後、UP/DOWN ボタンで文字・記号・数字を選択し、任意の名前を設定します。設定が完了したら、UP/DOWN ボタンで [OK] を選択し、設定を保存します。



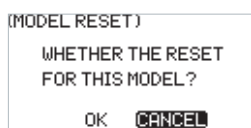
### コピー

- ・現在のモデルを、指定したモデルグループへコピーするための機能です。以前に使用したモデルと同一または類似したモデルを新しく設定する場合、この機能を使用すると、素早く設定を行うことができます。
- ・選択後、UP/DOWN ボタンでコピー元のモデルを選択し、OK ボタンを押します。次に、UP/DOWN ボタンでコピー先のモデル番号を選択し、[OK] を選択します。すると確認用のポップアップウィンドウが表示されますので、UP/DOWN ボタンで [OK] を選択すると、設定が保存されます。



### リセット

- ・現在のモデルのすべてのモデルデータを初期化するための機能です。
- ・選択すると確認用のポップアップウィンドウが表示されますので、UP/DOWN ボタンで [OK] を選択すると、リセットが実行されます。



## レースモード

この機能は、低信号アラーム（LOW SIGNAL ALARM）およびテレメトリー損失（TELEMETRY LOSS）を素早く無効化し、関連する信号アラームを停止するために使用します。

レース中はアラームが走行の妨げになることがあるため、レース前に本機能を有効にしてアラームを無効化することを推奨します。

レース終了後は、実際の使用状況に応じて、これら2つのアラーム機能を再度有効にするか判断してください。

## 機能の設定

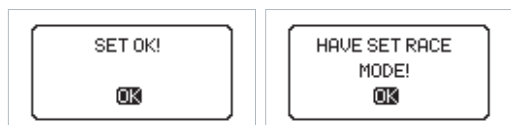
MODEL メニューで、UP/DOWN ボタンを使用して [RACE MODE] を選択すると、設定が成功したことを示すポップアップメッセージが表示されます。

UP/DOWN ボタンで [OK] を選択すると、ポップアップウィンドウが閉じます。

再度 [RACE MODE] を選択した場合、すでにレースモードが有効であることを示すポップアップメッセージが表示されます。これは関連するアラームが無効化されていることを意味します。UP/DOWN ボタンで [OK] を選択すると、ポップアップウィンドウが閉じます。

## 注意

- ・受信機が送信機と通信していない状態で [RACE MODE] を選択した場合、RF STD は自動的に [ANT 1 WAY] に設定され、同時に RF システムは [Routine] に切り替わります。
- ・受信機が送信機と片方向通信を行っている状態で [RACE MODE] を選択した場合、RF システムは [Routine] に切り替わります



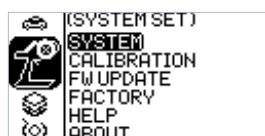
## 6.30 システム (System)

システムメニューには、以下の6つの機能サブメニューが含まれています。

システム設定、スティックキャリブレーション、ファームウェア更新、工場出荷時設定へのリセット、ヘルプセンター、バージョン情報

### 機能設定

システムメニューで、UP/DOWN ボタンを押して設定したい項目を選択し、OK ボタンを押すと、対応する機能サブメニューに入ります。



## 6.31 システム設定 (System Settings)

本機能では、送信機のシステムに関する各種設定を行います。

言語設定、アイドルアラーム時間、バッテリータイプ、表示コントラストおよび明るさ、LED ライト、画面点灯時間、システムサウンド、フェイルセーフ、音量などを設定できます。

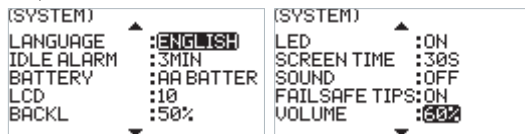
### バッテリータイプについて

- ・AA バッテリー：一般的に使用されている単3形アルカリ乾電池を指します。
- ・2S：リチウムイオン（リポ）電池2セルを使用する専用バッテリーです。  
本バッテリーは非標準仕様のため、誤作動による警告表示や、過放電・過熱などの危険を防止する目的で、使用前に必ず専門知識を有する方へご相談ください。  
※ 上記以外のバッテリーの使用は推奨されません。

## 機能設定

SYSTEM SET メニューで、UP/DOWN ボタンを押して設定したい項目を選択し、OK ボタンを押して編集状態に入ります。

UP/DOWN ボタンで希望の値を設定し、OK ボタンを押して設定を確定してください。



## 6.32 スティックキャリブレーション

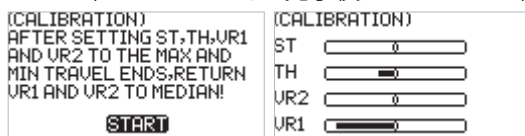
CALIBRATION (スティックキャリブレーション) 機能は、送信機を長期間使用することなどにより変化した、ニュートラル位置およびエンドポイントのデータを補正・復元するための機能です。

本機能を使用することで、ST、TH、VR2 各チャンネルを再調整することができます。

詳しくはスティックキャリブレーションの章を参照してください。

### 機能設定

- CALIBRATION メニューで、以下の操作を行います。
  - ステアリングホイールを左右いっぱいまで回し、ニュートラル位置に戻します。
  - トリガーを前後いっぱいまで操作し、ニュートラル位置に戻します。
  - VR1 を最大位置まで回し、ニュートラル位置に戻します。
  - 続いて、VR2 を左右最大位置まで回し、ニュートラル位置に戻します。
 すべて完了したら、OK ボタンを押してキャリブレーションを確定します。
- キャリブレーション完了後、すべてのチャンネル出力が設定どおり正常に動作していることを確認してください。



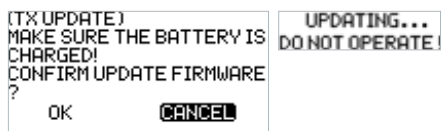
## 6.33 ファームウェア アップデート

FW UPDATE (ファームウェアアップデート) 機能は、メーカーによって提供される最新のファームウェアへ送信機のシステムを更新し、より良い機能およびサービスを利用するための機能です。

### 機能設定

- FW UPDATE メニューを選択すると、確認用のダイアログボックスが表示されます。UP/DOWN ボタンで [YES] を選択し、OK ボタンを押すと、アップデートが開始されます。アップデート完了後は、現在のメニューが自動的に終了します。
- アップデート完了後、送信機が正常に動作していることを確認してください。

注意：本機能を使用する際は、アップデート中に電源が切れないよう、送信機の電源残量が十分であることを必ず確認してください。



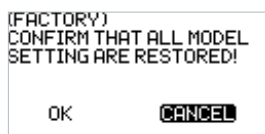
注意：ファームウェア更新中に更新状態を終了する必要がある場合は、送信機の電源を OFF にしてください。

## 6.34 工場出荷時へのリセット

FACTORY（工場出荷時へのリセット）機能は、操作中に複数の設定パラメータを誤って変更してしまった場合などに、送信機全体のシステムを工場出荷時の状態に復元するための機能です。

機能設定

1. FACTORY メニューを選択すると、確認用のダイアログボックスが表示されます。  
UP/DOWN ボタンで [YES] を選択し、OK ボタンを押すと、送信機のリセットが実行されます。
  2. リセット完了後、送信機が正常に動作していることを確認してください。
- 注意：本機能を実行すると、保存されているモデルデータを含むすべての設定パラメータが初期化されます。  
必要に応じて、事前に FlySky Assistant の関連機能を使用してデータのバックアップを行ってください。



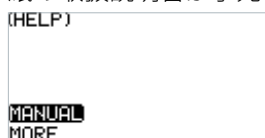
## 6.35 ヘルプセンター

HELP（ヘルプセンター）では、取扱説明書の QR コードを表示します。

スマートフォンで QR コードを読み取ることで、知りたい情報を確認することができます。（英語又は中国語のみ）

また、本メニューでは FLYSKY の公式ウェブサイトおよび公式メディアアカウントも確認でき、今後の FLYSKY とお客様との情報提供やコミュニケーションに役立ちます。

紙の取扱説明書が手元がない場合でも、電子版の取扱説明書については弊社へお問い合わせください。



## 6.36 送信機について

ABOUT（バージョン情報）サブメニューでは、システムのファームウェアおよびハードウェアに関する情報を表示します。これらの情報は、今後の保守やサポート対応の際の参照情報として利用できます。

## 7. 製品仕様

FS-G7P+ 送信機および FS-R11P 受信機の仕様について説明します。

### 7.1 FS-G7P+ 送信機の仕様

製品モデル	FS-G7P+
互換性のある受信機	ANT プロトコル採用受信機
互換性のある RC モデル	車、ボート類
チャンネル数	10
RF	2.4GHz ISM
RF Protocol	ANT
最大出力	< 20dBm ヨーロッパ CE 規格準拠
受信感度	≤ -99dBm
レゾリューション	4096
バッテリー	単三電池 4 本 /2S Lipo (JST)
データコネクタ	USB Type-C
充電ジャック	なし
アンテナ	内蔵アンテナ
ディスプレイ	128×64 ドット モノクロ液晶ディスプレイ
入力電源	4~9V/DC
ファームウェア	オンラインアップデート可能
通信距離	約 300 メートル 地上通達、遮蔽物、妨害物ない場合
温度範囲	-10°C ~ +60°C
湿度範囲	20% ~ 90%
寸法	136.4mm×111.8mm×197.5mm
重量	305g
電波認証	ヨーロッパ CE 規格 , FCC 規格 ID:N4ZG7P00, 技術基準適合証明: 210-244814

## 7.2 FS-R4B 受信機の仕様

製品モデル	FS-R4B
対応送信機	FS-G7P+ 送信機または、その他、ANT プロトコル採用送信機
互換性のある RC モデル	車、ボート類
チャンネル数	4
RF	2.4GHz ISM
最大出力	< 20dBm (e.i.r.p.) (EU)
RF プロトコル	ANT( 一方方向通信、受信のみ )
データ出力方式	PWM
動作電圧	3.5~8.4V
通信距離	約 300 メートル 地上通達、遮蔽物、妨害物ない場合
アンテナ	外部ワイヤー型単線アンテナ
ディスプレイライト	LED
ファームウェア	サポートなし
温度範囲	-10°C ~ +60°C
湿度範囲	20% ~ 95%
重量	5g
寸法	30.2mm×18.0mm×13.0mm
電波認証	ヨーロッパ CE 規格, 北米 FCC 規格 ID:2A2UNR11P00

## 8. パッケージリスト

送信機 ×1 (FS-G7P+)

受信機 ×1 (FS-R4B)

## 9. 各種証明

### 9.1 DoC Declaration

Hereby, [ShenZhen Flysky Technology Co., Ltd.] declares that the Radio Equipment [FS-G7P+] and [FS-R11P] are in compliance with RED 2014/53/EU.

The full text of the EU DoC is available at the following internet address: [www.flyskytech.com/info\\_detail/10.html](http://www.flyskytech.com/info_detail/10.html)

### 9.2 CE Warning

The antenna(s) used for this transmitter must be installed to provide a separation distance of at least 20 cm from all persons and must not be co-located or operating in conjunction with any other transmitter. End-users and installers must be provided with antenna installation instructions and transmitter operating conditions for satisfying RF exposure compliance.

### 9.3 FCC Statement

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device pursuant to part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

To assure continued compliance, any changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment. This equipment complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

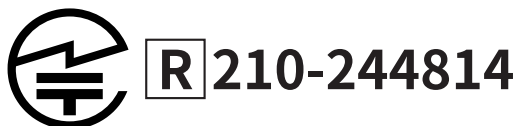
(1) This device may not cause harmful interference, and(2) This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

## Caution!

The manufacturer is not responsible for any radio or TV interference caused by unauthorized modifications to this equipment. Such modifications could void the user authority to operate the equipment.

1. The antenna(s) used for this transmitter must be installed to provide a separation distance of at least 20 cm from all persons and must not be co-located or operating in conjunction with any other transmitter. End-users and installers must be provided with antenna installation instructions and transmitter operating conditions for satisfying RF exposure compliance.
2. Move all your channels to the desired position.
3. Select [All channels] and then [Yes] in the confirmation box.

## 技術基準適合証明 相互承認 (MRA) による工事設計認証



## 9.4 環境保護の為の廃棄

### 注意

バッテリーを誤ったものに置換すると爆発する危険があります  
使用済みのバッテリーは、地方自治体指示に従って廃棄してください。

### 注意

- セーフガードを無効にする可能性のある誤ったタイプへのバッテリーの交換 (例:、一部のリチウムバッテリーの場合)。
- バッテリーを火や高温のオープンに廃棄したり、バッテリーを機械的に押しつぶしたり切断したりすると、爆発する可能性があります
- バッテリーを周囲が非常に高温になる環境に放置すると、爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを引き起こす可能性があります。
- バッテリーが極端に低い空気圧にさらされると、爆発や可燃性の液体またはガスの漏れが発生する可能性があります。

このマニュアルに掲載されている図やイラストは参考用であり、実際の製品の外観とは異なる場合があります。製品のデザインおよび仕様は予告なく変更される場合があります。

# FLYSKY

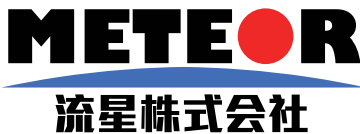
[www.flysky-cn.com](http://www.flysky-cn.com)

Copyright ©2025 Flysky Technology Co., Ltd.



FCC ID:N4ZG7P00

技術基準適合証明:R 210-244814



流星株式会社

〒 264-0021

千葉県若葉区若松町 720-1 渡部倉庫事務所

TEL:043-235-7949 FAX:043-497-5149

Web Site: <https://meteor1992.co.jp>

商品に関するお問い合わせはWEBサイトのお問い合わせより送信してください。

WEB サイト



Manufacturer: FLYSKY Tech Co.,Ltd

Address: 16F Huafeng Building, Futian District, Shenzhen, China.